

事前対策

家の安全対策

災害はいつ発生するかわかりません。日頃から家の内外の点検を行い、防災・減災の準備をしましょう。

家屋の備え

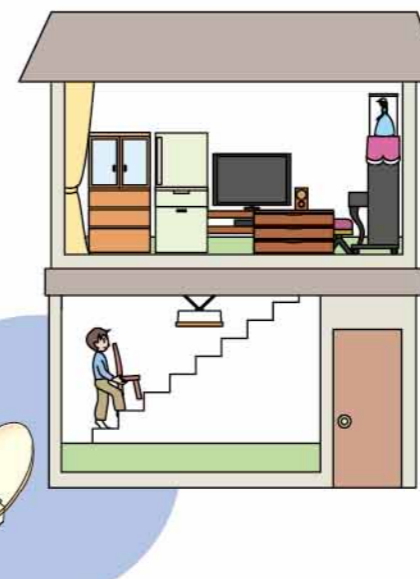
- アンテナはしっかり固定する。
- 屋根瓦やトタン屋根に破損やずれ、腐食等があれば修理する。
- ベランダの植木鉢や物干し竿等は、落下や飛散の危険性のある場所に置かないようにする。(★)
- 雨どいを掃除する。
- 古い雨戸は応急の補強をする(筋交いをつける、つかい棒をあてがう等)。
- ブロック塀や門柱の安全性を確認する(基礎がしっかりしている、鉄筋が入っている、ひび割れ等の破損や傾きがない等)。必要があれば修理する。
- 通路や出入口(避難路)には、自転車やベビーカーなどは置かないようにする。(★)
- 手すりが壊れていたら修理する。
- 雨戸のないガラス窓には、飛散防止フィルムを貼る。カーテンは、火災時に備えて防災加工のものにする。(★)
- プロパンガスボンベをしっかりと固定する。
- 強風等で飛散するおそれのあるものは、室内にしまう。しまうことができない場合は、しっかりと固定する。(★)

★の項目は、集合住宅にお住まいの方が個人でできる対策です。

風水害への備え

屋内の浸水対策

- 通帳・保険証等の重要書類や移動できる家電製品、思い出のアルバム等は、浸水しない高い場所に移動しておく。
- 電気のコンセントは漏電、ショート、感電などが発生する可能性があるため、家電製品等のコンセントを抜く。
- 水のうを風呂場や洗濯機の排水口、トイレの便器の水たまりの上に置いて逆流を防ぐ。



屋外の浸水対策

- 道路の側溝や雨水ますの詰まりは、道路冠水や浸水の原因となるため、側溝や雨水ますの上にブロック等を置かず、日頃から掃除をしておく。
- 倒木による電線や電話線の断線を防ぐため、樹木の所有者は、伐採や枝払い等の適切な管理をする。
- 半地下建物や地下室等がある場合は、土のうや止水板を準備し、必ず排水設備の整備・点検を行う。

簡易水のうの作り方

ごみ袋等のビニール袋(45ℓ程度)を2重にして、半分程度水を入れ、袋の口を縛る。

【浸水防止の使い方】
出入口などに隙間なく並べて使用。ダンボール箱等に入れて連結すると強度が増します。



地震への備え

- 火災報知器を設置する。
- 食器棚等、背の高い家具をL型金具やつつ張り棒等で固定する。家具の下にストッパー式器具を挟み、壁側に傾斜させる。重い物は下の段に収納する。
- 引き出しや開き戸には、飛び出し防止器具を取り付ける。
- テレビ等、揺れに弱い機器は固定器具等で固定する。固定できない場合は粘着性マット等を使用する。
- 吊り下げタイプの照明は、ワイヤーやチェーン等で揺れを抑えて落下を防ぐ。
- 感震ブレーカーを設置する。
- 窓ガラスの全面に飛散防止フィルムを貼る。
- カーテンは防災加工のものにする。
- ストーブは対震自動消火機能付きにし、近くに燃えやすいものを置かない。

家具類の配置について

- 大きな家具は人の出入りの少ない部屋にまとめて配置する。
- 玄関や廊下には物を置かない。
- 高齢者や子どもの部屋に、倒れやすい家具は置かない。

ガラス破片によるけが防止のため、スリッパ等を身近に用意しておく。

改訂にあたって

このたび発行した寄居町ハザードマップ【保存版 令和4年3月】は、平成31年2月に発行した寄居町土砂災害・地震・洪水ハザードマップ【保存版】から、主に次の内容について改訂を行いました。
改めて内容をご確認いただき、各家庭や事業所での防災対策にご活用ください。

【主な改訂事項】

- 国土交通省荒川上流河川事務所が令和元年6月に修正公表した洪水浸水想定区域図を反映。
- 埼玉県が令和2年5月に公表した水害リスク情報図を土砂災害・水害ハザードマップ上に反映。
- 令和2年度に完成した町の防災重点農業用ため池の浸水想定区域について掲載。
- 事前対策、屋内安全確保、車中泊などの避難に関する事柄、避難情報の発令基準など、新たな防災に関する記事を掲載。

目次

- 相互協力による防災・減災 1
- 事前対策 2~3
- 風水害対策 4~5
- 土砂災害・水害ハザードマップの見方 6
- 土砂災害・水害ハザードマップ 7~16
- 防災重点農業用ため池ハザードマップの見方 17~18
- 防災重点農業用ため池ハザードマップ 18~22
- 避難所等一覧 23
- 地震対策 24
- 地震の被害想定 25~26
- 情報の入手 裏表紙

相互協力による防災・減災

自助・共助・公助

大規模災害の発生直後は、行政機関や消防、警察などによる迅速な救助(公助)は難しいと考えられます。被災したらずは、自分や家族の命を自力で守り(自助)、地域の人たちと助け合い(共助)しましょう。自助・共助・公助の3つで、相互に助け合い「災害に強いまちづくり」に一緒に取り組みましょう。

